

法住寺虚空蔵堂(上田市)

こくぞうどう

山門



重要文化財

法住寺虚空蔵堂

虚空蔵堂は入母屋造で、桁行（正面）三間、梁行（側面）四間である。奥行が長い長方形となっているのは、本尊の安置されている内陣に参詣者の参拝する外陣がつけられているためで、内陣と外陣の間は格子戸でしきられている。屋根はこけら葺で、棟の両端に鬼面がつけられている。

堂全体は和様で造られているが、懸魚などに見られるように禅宗様を取り入れているところもある。

この堂には、文明十八年（一四八六）に再建されたという棟札が残っており、室町時代後期に建立されたものと考えられる。また、堂内の厨子も同時代に造られたものと推定され、虚空蔵堂とあわせて重要文化財に指定されている。

指定年月日 大正十一年四月十三日

上田市教育委員会



山門を背面から見る



参道を虚空蔵堂へと進む



右手の石柱には「特別保護建造物虚空蔵堂」と記されている



振り返って山門方向を見る



正面が法住寺虚空蔵堂



虚空蔵堂/1486年再建/重要文化財



重要文化財

法住寺 虚空藏堂

巻字

棟 社

参枚

厨 子

巻基

指定 大正十一年四月十三日

法住寺は天台宗の寺で棟札には貞觀年間、慈覚大師により創建されたとある。その後、文安年間兵火により焼失、文明十八年(1486)に再建。この堂はその際の建立であり、様式も一致している。

堂は基壇を設けず、雨落を廻し自然石の礎石の上に立てられている。桁行三間、梁間四間、入母屋造、こけら葺で周囲に切目縁を廻し、前に一間の向拝を設けている。

堂は全体として和様を基調とし、細部には唐様も用いられている。唐様の斗拱は木割が大きく荘重であり、屋根の妻が深く入っている。輪郭が奇抜である。

堂内の厨子も同時代の作である。

昭和二十九年十一月十三日

長野県教育委員会

丸子町教育委員会



屋根の妻が深く入っているのが特徴となっている



基壇を設けなくて雨落を配置し、自然石の礎石の上に建っている





「福一満」と書かれた額が、虚空蔵堂に大きく掲げられている



三間四間の奥行の長い長方形平面となっており、内陣と外陣の間は格子戸でしきられている



唐様の木割が大きい斗拱が見てとれる



厨子も虚空蔵堂と同時代に造られたものと推定されている/方一間入母屋造で禅宗様式独特の方式で造られている/中に虚空蔵菩薩が安置されているが大へん精巧なもので、虚空蔵堂とあわせて国の重要文化財に指定されている







前方柱間一つ分が吹放ちとなっている



向拝部分





脇に社が建つ





屋根は入母屋造の柿葺で、棟の両側にはいかつい鬼の面、鬼板がついている



全体的には和様であるが、懸魚などに禅宗様のところも少し見られる



正面は束はなく、斗と実肘木(この場合は通し肘木か)のみがつけられている中備/この斗から下を欠いた中備は県内の室町時代の建築でしばしばみられるものという



周囲に廻る切目縁



前方が本堂



参考ホームページ

<http://museum.umic.jp/map/document/dot86.html>

<http://www1.ocn.ne.jp/~oomi/kokuu.html>

http://tempsera.at.webry.info/201104/article_7.html

<http://ogino.ninpou.jp/maruko/kokuzoudou/index.htm>

<http://nagatabi.hariko.com/ueda/houjyuu/06syasin.html>

